

令和4年度 佃島小学校 外部評価報告書

評価委員：御代川和寿委員・志村昌孝委員・古里渉利委員・田野美栄子委員
小島泰明委員・鈴木猛夫委員・松井弘委員・青柳聖真委員

報告書作成者：羽田悠介

評価時期 令和4年2月

1 重点目標の評価

重点目標1「豊かな社会性、人間性の育成」について

- ・学校経営方針の第1に「あいさつの励行」を掲げている。今年度も、昨年度から引き続き挨拶運動を行った。「あかるく いつも さきに つづけて」あいさつを行うことを目指して、学期に1回ずつ「挨拶オリンピック週間」を設定し取り組んだ。また、代表委員会が毎朝玄関に立ち、挨拶を行う挨拶運動も行った。その結果、進んで挨拶をする児童も増え、学校評価の数値も好意的な意見が増加した。外部評価委員からは、挨拶については、家庭で力を入れていく必要があるという意見が出た。今後も、挨拶をする大切さを学び、挨拶をしようとする意識を育てる場の設定を行っていくこと、学校と家庭と地域とが一致した課題意識をもって取り組んでいくことが大切であると確認した。
- ・児童の悩みに対して、担任だけでなく学年、スクールカウンセラーを含め、学校全体で対応しているが、児童の学校評価から、担任の先生に対して悩み事を相談しやすいと答える児童の割合が他の項目に比べて低かった。担任以外の教職員へ相談できる場を設けたり、タブレット端末を活用したりしながら、今後も児童理解に努めていくことが大切であると確認した。
- ・一人一台のタブレットが導入されたことで、学び方が大きく広がっているが、SNSの不適切な活用や、SNS上のいじめ、SNSを通して犯罪に巻き込まれる児童の増加など、社会問題化している。小学校から情報モラル教室を数回開催したり、日々の授業の中で児童へ指導したりしながらデジタルシチズンシップ教育を推進している。外部評価委員からも、小学生からのネットやSNSとの正しい付き合い方を学ぶ必要があるという声が多かった。また、今年度5、6年生対象に、PTA主催で情報モラル教室も開催していくことを確認した。

重点目標2「基礎基本の確実な定着」について

- ・児童1人1台のタブレット端末が配布され、学習形態も大きく変化した。特に、タブレット端末を活用した授業は、児童1人1人に考える活動や友達の考えを比較しながら、自身の考えを深める活動を促進してきた。また、タブレット端末を利用したドリルパークの活用により、苦手な分野への集中した学習ができるようになった。
- ・タブレット端末を活用した授業の充実はもちろんだが、人と人との触れ合いを大切にしたい個に応じた指導の充実を図っていくことが大切である。「主体的、対話的、深い学び」という視点も踏まえながらの授業改善に関わる研究実践が継続されることを期待する。

重点目標3「生涯を健康に過ごす素地の育成」について

- ・新型コロナウイルスの影響で体力向上の取組が減少している。学校評価からも、保護者、児童、教員ともに体力向上について課題意識をもっていることが分かった。来年度「なわとび」に全校で取り組む計画を立て、児童の体力向上を目指していくことを確認した。

2 今後の改善に向けた意見

- ・令和6年度をめどに、ジェンダー平等の観点や、児童がより快適に学校生活を送れるように、標準服の選択の幅を広げる方向で調整している。外部評価委員の方々からも賛同が得られた。

* 3月末に各学校・幼稚園のホームページで公表していきます。